

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200141		
法人名	社会福祉法人 柚子の会		
事業所名	グループホームリブ花見川 (ユニットA)		
所在地	千葉県千葉市花見川区花見小川3-29-201		
自己評価作成日	2021.2.19	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員と入居者との関係ではなく相手の望む関係作りをし、安らぎの中に居心地の良い空間作り、買い物、散歩に出掛け地域の方と触れ合い、一日楽しかったと思って頂ける様支援します。
 ・花見川団地の中心でもある商店街に隣接しており京成八千代台駅よりバスで約13分随時運行し、ご家族の方も大変来やすい便利なホームです。
 ・建物内は居室、食堂及び談話室、広々とした廊下があり、天候に影響されず適度な運動が可能です。
 ・昨年、リフォームを行いキッチン、フロア共に家庭的で暖かみのある落ち着いた雰囲気の中、皆さんゆったりと過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 京成電鉄八千代台駅からバスで13分の花見川団地中央部に立地した施設です。駅からのバス便が多く、近くに交番、スーパー、コミュニティセンター、公園等があり、訪問や、生活に便利です。建物内は昨年リフォームされ、長くて広い廊下はコロナ禍の中格好の室内歩行訓練通路になっています。
 2. 家庭的な雰囲気の中利用者本位のサービス提供を行い、今回実施した家族アンケートでも好評を得ています。利用者平均年齢86.9歳(90歳超10名)と高齢ですが、平均介護度3.1と比較的低く、年齢の割に元気に自分のペースで過ごしています。
 3. 各種改善事例が見られる他、自主的に作成した4項目の改善計画のうち2項目は1年足らずで達成しており、サービス向上に熱心に取り組んでいる施設です。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200141	
法人名	社会福祉法人 柚子の会	
事業所名	グループホームリブ花見川 (ユニットB)	
所在地	千葉県千葉市花見川区花見小川3-29-201	
自己評価作成日	2021.2.19	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員と入居者との関係ではなく相手の望む関係作りをし、安らぎの中に居心地の良い空間作り、買い物、散歩に出掛け地域の方と触れ合い、一日楽しかったと思って頂ける様支援します。 ・花見川団地の中心でもある商店街に隣接しており京成八千代台駅よりバスで約13分随時運行し、ご家族の方も大変来やすい便利なホームです。 ・建物内は居室、食堂及び談話室、広々とした廊下があり、天候に影響されず適度な運動が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (ユニットA)	外部評価 (ユニットAおよびB 全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や申し送りにて常に共有している	地域密着型サービスの意義を織り込んだ運営法人の理念と3か条の方針を施設内に掲示し、職員は毎月のユニット会議時に確認・共有し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で利用者と一緒に買い物には行かれないが事業所として地域とつながっている	従来は地域の行事(夏祭り等)に参加したり、バザーへの出店、ボランティアの受入れ、運営推進会議への地域住民の参加等交流が盛んでしたが、現在は一切中断状態です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流に努めているが、実際、認知症が理解されているかはわからない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が行っている。職員は周知している	これまで3か月毎に地域包括支援センター職員初め関係者が参加し開催していましたが、現在コロナ禍の為施設内職員で開催し、関係者に電話で意見を聞き、書類を関係者に送付する形をとっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市担当者と利用者の件で報告や相談をしている	管理者は、必要の都度市担当に報告・相談している他、地域包括支援センターとは、常に電話等で連絡を取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていないが状況によってはご家族の理解の下、可能性は否めない	今年度身体拘束廃止委員会を3回、職員研修を2回実施し、周知徹底を図っています。昼間玄関は施錠していませんが、窓から逃げ出した利用者があり、その居室では家族の了解を得て窓の施錠をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修やご家族、職員に対しての環境やメンタルケアにも気をつける		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、制度を知っている職員も少ない。今後は制度を理解した上で支援して行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、管理者が十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中、運営推進会議開催は難しいが郵送にて意見、要望を聞き反映している	従来は家族の訪問時、運営推進会議時、家族会時に、要望を聞いていましたが、現在コロナ禍の為に中断しています。家族面談も一時条件付き(2家族/日、15分、場所限定)で実施していましたが、現在は、電話やお便りでの連絡にとどめています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとの会議で話し合い、反映、改善している	管理者は、日常、ユニット会議、個人面談の中で職員の意見・要望を聞き、運営に反映する様に努めています。又本部から参加のエリア会議時に、大きい案件を取り上げて本部に提言し、職員の要望を汲み上げて貰う様にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従事者それぞれが向上心を持ち、意見、行動ができる様な環境に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外研修や資格取得の機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナ禍の中で同業者との交流は難しい。今後、リモートによる勉強会も行っていきたいと思う		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状態を把握して本人が安心して生活できるような情報集め支援に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いの中でご家族の思い、不安を聞き、信頼関係を築ける様、支援に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と接し家族との話し合いの中で困っている事や、要望などを何が必要か見極めて、把握しサービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせ、できる事は一緒にやっていたく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子、状態を定期的に手紙に書き送付したり、電話にて伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外部との交流は難しいが、思い出話をしたり、傾聴等で利用者との交流を大切にしている	利用者は初詣や花見や近距離ドライブで、地域の景色の移り変わりを見る事もなく、室内での行事のみに参加しています。コロナ禍でも一時は「1日2組、15分のガラス越し」の面会に、子供や孫、成年後見人が定期的に来訪していましたが、現在は自粛中です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの認知度、状態を見極め、互いに助け合ったり話ができる様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用後家族が気軽に相談できるような環境作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をお聞きし、出来るだけ希望に沿った生活が過ごせるように支援している	家族には、請求書と共に利用者の暮らしぶりが分かる報告を、毎月丁寧に行っています。言語力のある利用者の希望を聴き取り、買い物等の支援をしていますが、帰宅願望を訴える意向が多いとの事です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、または家族より生活環境を聞き、それに近い生活が出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体、精神状況を一日過ごした内容を記録に残し全職員が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心した生活が送れるようにご本人、ご家族、関係者を含め話し合いを持ち、計画作成をしている	ケアプランの作成は6か月毎、モニタリングは3か月毎に行っており、その間に家族や利用者の希望、職員、医療職等の意見を聞いて利用者に寄り添う介護計画となる様にしていますが、家族との電話では計画への要望が出ず、家族の理解不足の可能性が有ります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートに記入し、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望によりその時々ニーズに対応出来る様臨機応変に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で現在地域との交流は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年度より在宅医も変わり月2回の往診となり本人に代わり質問し、適切に治療してもらえる様支援している	月2回の内科医訪問診療と歯科医の訪問診療により、利用者の健康維持に努めています。また、整形外科や循環器等については、家族と協力して外来通院を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年より訪問看護が週一で入り、日常の情報共有に努め緊急時の対応も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った時には医師等に状態を聞き、医師、家族とのカンファレンスには必ず同席させて頂き、協力し合える環境づくりに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になってきた時点で医師、家族、職員を交え今後の保身、希望、施設で提供可能なこと、またできない事を明確にし家族の希望に沿えるよう努めている	昨年度4人の看取りを行っています。ターミナル時の緩和ケアを医師、看護職と連携してその指示を職員が受け、利用者の望む生活が維持される様に介護支援しています。利用者の緊急搬送は内科の場合がほとんどです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、利用者、職員ともに避難訓練時に行い備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在コロナウイルス感染リスク回避のため集まり等は極力避けている。管轄の消防署に連絡し感染リスクが軽減してからの対応が望ましいとの指導を受けている。	コロナ禍の為消防署立ち合いの訓練はできず、職員だけによる自主訓練を2回実施しています。一連の防火装置・機器は完備し、5日分の備蓄に発電機も備え、緊急時4名の職員が駆け付ける体制を整えています。	最近大規模災害が多発していることを踏まえ、年1回全員防災頭巾等着用した災害避難訓練の実施、処方箋又はお薬手帳を入れた緊急時持ち出し袋の準備、及び長期停電時の安全な避難先の検討が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者を敬う気持ちを忘れず、プライドを傷つけないよう、言葉掛けに配慮し対応している	職員の言動が利用者の動揺に繋がることのないサービスとなる様に、接遇研修等で支援技術を受講し、利用者の環境を向上させる努力をしています。	職員教育を行っていますが、計画的、定期的に技術アップに繋がる研修計画一覧を完成し、年間スケジュールを見える形にする事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話の中で希望、要望を伺い自己決定できるように促す		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて、常に臨機応変に対応出来る様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔、整容に気を付け個人の趣味などに対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で買い物には一緒に出掛けることはできないが職員が毎回手作りで料理を提供している。食後は一緒に後片付けを行っている	箸を使い、常食で嚥下力のある利用者が約半分、要介助者が2名、他見守り支援、形態別食の支援を行っています。近隣での買い物や配膳、片付けに至るまで、感染予防のための衛生管理を徹底しながら、食事介助しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分摂取量をチェックし、利用者の状態を把握し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯、口腔内の清潔を保つように個人に合わせてケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員全員で把握し個人の能力にあった支援を行う。自立支援をしている	時に失禁される人もいますが、トイレ排泄支援をしています。排泄自立者は1人で、ほぼ全員が介助が必要ですが、車いす利用（8名）や歩行器等を使用して2～3時間毎にトイレ誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄記録を下に食事のバランス水分量など個々の便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、一応曜日は決めているが、利用者の体調や希望に合わせて入浴している	週2回、1人30～40分、1日2～3人の入浴支援を1対1で行っています。跨いで入れる利用者は1人のみで、他は介助やシャワー等利用者の要望を聞いて支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体の状態に合わせ横になる時間を設けるなどして安心して気持ちよく過ごして頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能知り、変化があった時は主治医に報告、連絡をし、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや洗濯物を畳んで頂く等、無理をしない範囲で出来る方に行っている。また気分転換に他棟へ散歩に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で現在、外出は中止となっている	外出させて欲しいとの希望が、家族、利用者からもありますが、コロナ禍での行政通達を守って、外出を控えています。利用者はガラス越しに日光浴をしたり、車いす（3名）や歩行器（4名）で室内廊下を往復して体力維持を自発的に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価（ユニットA）	外部評価（ユニットAおよびB 全体）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本施設で管理を行い、利用者や家族の希望に応じて使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症があるので利用者では難しいが職員が電話や手紙で状況を報告している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて季節の飾りつけや花や緑を飾り明るい空間にて過ごして頂く	季節の飾りつけや室温・湿度の適度の調節をしていますが、コロナ禍対策の為に特に適時の換気、掃除（特にトイレ）、消毒（特に食前食後のテーブル拭き等）を強化しています。又巣ごもり対応として、職員は音楽を流したり、体操を促していますが、利用者は自発的に室内歩行に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に考慮し椅子やテーブルを配置して気分により場所を変えて過ごせる様に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の居心地良い部屋作りをして頂きたく今まで使用されていた品をお持ちいただいている	居室は、エアコン、介護用ベッド、洗面所が備え付け（A棟）で、やや広く、利用者が快適に過ごせる様になっています。現在職員は換気に気を配ると共に、車いす利用者が8名と多いこともあり動線確保に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の動線を確保し、安全に過ごせるよう配置している。また、目印になるようにラベルなどを使い自立した生活が出来る様工夫している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (ユニットB)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時の申し送り月一度のフロア一会議などにて常に共有している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度はコロナウイルス感染症の対策の為外出及び外部との接触を極力減らし感染リスクの対策に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は感染リスク回避のため外部との接触が出来ず地域交流を控えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催を行わず施設からの情報を文書にて発信するにとどめている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が事あるごとに市町村と連絡を取り合い協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は行っていない。1名身体拘束しているが、外せるよう努力している。身体拘束の研修も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行ってける		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	回覧として職員に伝達している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている 十分な説明をし、納得して入所して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られる家族から意見を聞き出来る限り反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を月に1回行い、話し合った事を支援に反映できるよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員の数が安定せずまた自宅待機の職員が出たりと残っている職員がカバーしたりし、残業や休日出勤が目立つ年となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は行わずリモート研修のみの対応で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在職員同士でも感染リスクを軽減するため過度の接触をせず生活しているため部外者との交流はネットなどとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安全、安心を確保する為の関係性、支援は出来ている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族へ近況報告の為の手紙を書いたり、面会時に報告させて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族とのコミュニケーションを図り、その時必要な支援、サービスをする事に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態に応じてできる事は行って頂き、出来ない事を支援させて頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状態、様子を定期的には手紙や電話で伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内では季節行事等を行っているがコロナ感染リスク回避のため外部との交流は残念ながら途切れてしまっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の現状で症状が進まれている方が多く他者とのかわりが持ちにくくなっている中で職員の役割がどこまで交流に役立っているのか模索している。		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、いつでも立ち寄れるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通がある場合は本人の希望にできるだけ沿うようにできるだけ努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の共有を行い、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や細かい変化など主治医に相談しながら記録し周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人第一に考え、今、何を求めているか、家族、関係者と話し合い計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートで情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望を優先する為にも、柔軟な支援、サービスの多様性に努めている		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は外部との交流を行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診日以外にも細かい変化など常に連絡を取り合い施設と医師、訪問看護ステーションと情報の共有を密に行こなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、連絡、相談はその都度している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会ができない状況が続いているため看護師に状態を聞き、把握に努め、医師、家族と連絡、協力し合えるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の希望、方針、施設で出来る事、できない事を明確にし、要望に答えられる様取り組んでいるまた、訪問看護が入ることで緩和ケアにも柔軟に対応できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修を行い、急な対応に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在コロナウイルス感染リスク回避のため集まり等は極力避けている。管轄の消防署に連絡し感染リスクが軽減してからの対応が望ましいとの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りを損ねないよう十分に配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の意向に沿って決定している。 出来ない方は職員が話し合い等推察にて決定していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の過ごし方は、その日の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服等は、可能な限り本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	色どり等工夫して提供しているコロナ禍の為職員が手洗いを充分に行って準備食事片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回チェックし個人の状態に応じて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて声掛け支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表と介護記録をもとに排泄のパターンを把握し自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を中心とした献立を作り、食物繊維が摂取出来るように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の体調や気分、希望に合わせて週2回入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に応じ、安心して過ごせるよう支援しているが、昼夜逆転には気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量を理解している。症状の変化等がある場合はすぐにかかりつけ医に連絡し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の為、隣の棟に行き交流を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染症の為中断。		

自己	外部	項目	自己評価（ユニットB）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が出来ない為職員が代わりに買いものに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	意思表示が出来ない方や字がうまく書けない方に代わり職員が近況報告で電話したり手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度、温度調整や光の入り具合によりカーテンの開け閉めを行っている。 状況に応じて音楽を流したりしている。 座る場所も状況に応じて代えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席を個人固定していないので、その時の気分で選んでもらい、少しでも楽しく過ごしてもらえるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの衣類やこだわりのあるものを出来る限り使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の導線を確保して安全に過ごせるよう配置している、また目印になるようラベル等を使い自立した生活出来るよう工夫している。		